

病院の 実力

～長野編 110

今回の病院の実力は脳腫瘍を取り上げる。一覧表の成人は2016年の手術患者数を掲載した。小児は外来・入院の患者数を示した。脳そのものだけでなく神経膠腫は、周囲に染み込むようにして広がる悪性腫瘍が多い。

病院の実力「脳腫瘍」〈成人〉

医療機関別2016年治療実績
(読売新聞調べ)

医療機関名	神経膠腫 (人)	髄膜腫 (人)	神経鞘腫 (人)	下垂体腺腫 (人)
長野				
信州大	19	15	10	23
諏訪赤十字	7	8	2	14
小林脳神経外科	5	17	3	6
長野市民	9	3	1	8
一之瀬脳神経外科	9	8	0	3
佐久医療セ	4	7	2	5
長野松代総合	5	8	0	3
伊那中央	4	7	0	4
長野赤十字	4	9	0	0
北信総合	2	3	0	1
瀬口脳神経外科	5	0	0	0
飯田市立	0	1	1	1
安曇野赤十字	1	0	0	0

「セ」はセンター。

脳腫瘍

放射線・抗がん剤治療併用

手術ですべてを切り取るのが難しいため、放射線治療や抗がん剤治療を併用することが多い。脳内の髄液の流れに乗って、脳の別の部位に転移することもあり、注意が必要だ。

脳を包んでいる髄膜にできる髄膜腫、聴神経などを取り巻く鞘のような組織から発生する神経鞘腫、脳を中心に位置する下垂体が腫瘍化した下垂体腺腫は、いずれも多くが転移の心配がない良性腫瘍だ。

最も多い髄膜腫の治療では、術前に腫瘍につながる血管を塞ぐ「塞栓術」という処理をすることで、出血が減り、安全に手術を行える。下垂体腺腫では、鼻の穴に入れた内視鏡を操作し切除する治療が

〈小児〉

医療機関名	患者数 (人)	フォロー体制 (◎＝自施設で 対応、○＝連携 施設で対応)	
		◎	○
長野			
信州大	10	○	○
長野赤十字	6	◎	○
伊那中央	2	○	○
佐久医療セ	1	○	○
小林脳神経外科	1	○	○
飯田市立	1	○	○



吉村淳一・長
野赤十字病院
・第一脳神経
外科部長

小児、ホルモン補充重要

主流だ。15歳未満の小児では、治療だけでなく、できるだけ後遺症を残さないような対応が必要だ。抗がん剤や放射線治療

の影響が、後になって出てくる可能性があり、長期的に経過をフォローできる体制も重要になる。

小児がんでは白血病に次いで多いがんだが、専門で診る医師は少ない。多くの症例を経験している「こども病院」などの専門医療機関で治療を受けたい。

長野赤十字病院（長野市）の第一脳神経外科では、小児の脳腫瘍について小児科の専門医とも連携し、治療後の長期的なフォローアップ体制を築いている。

小児の脳腫瘍は、麻痺や知的障害、てんかん発作や内分泌障害など、後遺症へのサポートが重要になる。特に成長

過程にある子供の内分泌障害には、定期的に成長ホルモンを注射するホルモン補充療法が欠かせない。同院の吉村淳一・第一脳神経外科部長（48）は「適切なホルモン補充ができれば、身長の伸びが抑えられたり、生殖器の発達が影響を受けたりということもなくなる」と話している。

全国の調査結果は「くらし健康面」に掲載しています。次回は5月7日「形成外科」の予定です。